

科目区分	専門基礎分野	科目名	解剖生理学 I (人間の構造・生命維持機能)		
開講時期	1 年次	単位・時間	1 単位 30 時間	講師名	医 師 非常勤講師
学習目標	1. 身体の構造と機能を細胞レベルで学び、その成長段階と人体の生命維持機能及び生殖機能を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	人体の構造			講義
	2	分化した細胞がつくる組織			講義
	3	生命の発生			講義
	4	成長と老化			講義
	5	血液 機能と組成			講義
	6	血球の分化、赤血球、貧血とは			講義
	7	貧血 Hb の O ₂ 解離曲線			講義
	8	ビリルビン代謝と黄疸			講義
	9	白血球 顆粒球・リンパ球・単球			講義
	10	B 細胞・抗体の働き、種類			講義
	11	アレルギー・血液凝固と止血 血液凝固因子・血友病			講義
	12	BSR・CRP 血液型 血液型不適合妊娠			講義
	13	脱水・電解質異常・酸塩基平衡			講義
	14	酸塩基平衡異常 男性生殖器 体温			講義
	15	皮膚と粘膜			講義
		終講試験			
評価方法	筆記試験				
テキスト	系統看護学講座 解剖生理学 <医学書院>				
参考文献	「系統看護学講座」準拠 解剖生理学ワークブック <医学書院>				
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	講義前後、テキスト・参考書を活用し知識の定着を図る		

科目区分	専門基礎分野	科目名	解剖生理学Ⅱ（骨格・循環器・呼吸器系）		
開講時期	1年次	単位・時間	1単位 30時間	講師名	医師
学習目標	1. 骨筋系の解剖生理について学び、正常な人体および疾病をもった場合の変化と結びつけて理解する。 2. 循環器系の解剖生理について学び、正常な人体疾病をもった場合の変化と結びつけて理解する。 3. 呼吸器系の解剖生理について学び、正常な人体および疾病をもった場合の変化と結びつけて理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	骨・筋系の解剖			講義
	2	1) 骨格 3) 関節運動の種類	2) 関節の構造 4) 骨格筋の構造		講義
	3	骨筋系の生理			講義
	4	1) 筋の特性	2) 筋収縮の機構		講義
	5	循環器系の解剖			講義
	6	1) 心臓と心筋の構造	2) 血管の構造と種類		講義
	7	3) 胎児の血液循環	4) リンパ系		講義
	8	循環器系の生理 1) 心臓の機能			講義
	9	3) 肺循環と体循環	4) 心拍・脈拍	5) 血圧	講義
	10	呼吸器系の解剖			講義
	11	1) 上気道 2) 下気道・肺 3) 胸郭・縦隔			講義
	12	呼吸器系の生理			講義
	13	1) 内呼吸と外呼吸 2) 呼吸器と呼吸運動			講義
	14	3) ガス交換とガスの運搬 4) 呼吸運動の調節			講義
	15	終講試験			
評価方法	筆記試験				
テキスト	系統看護学講座 解剖生理学 <医学書院>				
参考文献	「系統看護学講座」準拠 解剖生理学ワークブック <医学書院>				
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	講義前後、テキスト・参考書を活用し知識の定着を図る		

科目区分	専門基礎分野	科目名	解剖生理学Ⅲ（消化器・腎泌尿器・内分泌系）		
開講時期	1年次	単位・時間	1単位 30時間	講師名	医師
学習目標	1. 消化器系の解剖生理について学び、正常な人体および疾患理解の基礎とする。 2. 腎泌尿器系の解剖生理について学び、正常な人体および疾患理解の基礎とする。 3. 内分泌系の解剖生理について学び、正常な人体および疾患理解の基礎とする。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	消化器系の解剖生理			講義
	2	1) 消化器系 2) 口腔 3) 咽頭と食道 4) 腹部消化管 5) 肝臓			講義
	3	6) 胆嚢 7) 膵臓 8) 腹膜と腸間膜			講義
	4	消化器系の生理 1) 栄養摂取 2) 咀嚼と嚥下			講義
	5	3) 消化と吸収 4) 排便のしくみ			講義
	6	腎泌尿器系の解剖			講義
	7	1) 泌尿器系 2) 腎臓 3) 排尿路			講義
	8	腎泌尿器系の生理			講義
	9	1) 尿生成のメカニズム 2) 尿の貯蔵と排尿			講義
	10	3) 体液の調整			講義
	11	内分泌系の解剖			講義
	12	1) 内分泌腺			講義
	13	2) 全身の内分泌腺 (1) 視床下部 (2) 下垂体 (3) その他			講義
	14	内分泌系の生理 1) ホルモンの種類と作用 2) ホルモン分泌の調整機能			講義
	15	終講試験			
評価方法	筆記試験				
テキスト	系統看護学講座 解剖生理学 <医学書院>				
参考文献	「系統看護学講座」準拠 解剖生理学ワークブック <医学書院>				
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	講義前後、テキスト・参考書を活用し知識の定着を図る		

科目区分	専門基礎分野	科目名	解剖生理学Ⅳ（脳神経・感覚器系）		
開講時期	1 年次	単位・時間	1 単位 30 時間	講師名	医 師
学習目標	1. 脳神経系の解剖生理について学び、正常な人体および疾患理解の基礎とする。 2. 感覚器系の解剖生理について学び、正常な人体および疾患理解の基礎とする。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	脳神経系の解剖			講義
	2	1) 神経系 2) 中枢神経系			講義
	3	3) 末梢神経系			講義
	4	(1) 脳神経			講義
	5	(2) 脊髄神経と神経叢			講義
	6	(3) 体性神経系 (4) 自律神経系			講義
	7	脳神経系の生理			講義
	8	1) 神経細胞			講義
	9	2) 中枢神経系			講義
	10	3) 末梢神経系			講義
	11	感覚器の解剖 1) 味覚受容器 2) 嗅覚受容器			講義
	12	3) 聴覚・平衡感覚受容器 4) 視覚・色覚受容器 5) 皮膚の感覚受容器			講義
	13	感覚器の生理 1) 触覚 2) 内臓感覚 3) 味覚 4) 嗅覚			講義
	14	5) 聴覚・平衡覚 6) 視覚・色覚 7) 内部情報の受容体と認識			講義
	15	終講試験			
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	系統看護学講座 解剖生理学 <医学書院>				
参考文献	「系統看護学講座」準拠 解剖生理学ワークブック <医学書院>				
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	講義前後、テキスト・参考書を活用し知識の定着を図る		

科目区分	専門基礎分野	科目名	疾病と治療(総論)		
開講時期	1年次	単位・時間	1単位 30時間	講師名	医師
学習目標	1. 健康から疾病に至る変化の過程を日常生活との関連で理解する。 2. さまざまな疾病がもたらす身体内部の変化を理解する。 3. 検査法の概要を理解する。 4. 治療法の概要を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	疾病の成立と病因			講義
	2	細胞障害 先天異常			講義
	3	循環障害			講義
	4	代謝異常			講義
	5	炎症とアレルギー			講義
	6	腫瘍①			講義
	7	腫瘍②			講義
	8	検査の進め方と各種検査			講義
	9	疾病とは(まとめ)			講義
	10	疾病の治療 1) 運動療法			講義
	11	2) リハビリテーション療法			講義
	12	3) 放射線療法			講義
	13	4) 手術療法・麻酔			講義
	14	5) 救急医療			講義
15	終講試験				
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	新クイックマスター 病理学 パワーアップ問題演習病理学 <サイオ出版> 新体系看護学全書 別巻13 治療法概説<メジカルフレンド>				
参考文献					
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	講義前後、テキストを活用し知識の定着を図る		

科目区分	専門基礎分野	科目名	疾病と治療 I (中枢神経・感覚機能障害と治療)		
開講時期	1年次	単位・時間	1単位 30時間	講師名	医師
学習目標	1.中枢神経機能の障害とその治療について理解する。 2.感覚機能の障害と治療について理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	1.神経系の障害と治療 1) 中枢神経系の疾患 (1) 脳血管系の循環障害			講義
	2	(2) 頭蓋内圧亢進に伴う症状			講義
	3	(3) 中枢神経系の感染症			講義
	4	(4) 頭部と脊椎の外傷 (5) 中枢神経系の腫瘍			講義
	5	(6) 二次的に意識障害・神経障害を起こす疾患			講義
	6	2) 末梢神経の疾患 (1) ギラン・バレー症候群			講義
	7	(2) 糖尿病性神経障害			講義
	8	3) 神経・筋疾患 (1) 筋ジストロフィー (2) 筋萎縮性側索硬化症 (ALS)			講義
	9	4) 神経変形・脱髄性の疾患			講義
	10	5) 認知症			講義
	11	2.感覚機能障害と治療 1) 眼の構造と機能 症状・検査			講義
	12	2) 眼の疾患と治療			講義
	13	3) 聴覚・平衡覚の障害			講義
	14	4) 嗅覚と味覚の障害			講義
	15	終講試験			
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	系統看護学講座 成人看護学[7]脳・神経 <医学書院> 系統看護学講座 成人看護学[14]耳鼻咽喉 系統看護学講座 成人看護学[13]眼				
参考文献					
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	講義前後、テキストを活用し知識の定着を図る		

科目区分	専門基礎分野	科目名	疾病と治療Ⅱ（呼吸・循環・造血機能障害と治療）		
開講時期	1年次	単位・時間	1単位 30時間	講師名	医師
学習目標	1. 生命危機状態とその対処方法について理解する。 2. 呼吸機能の障害とその治療について理解する。 3. 循環機能の障害とその治療について理解する。 4. 造血機能の障害とその治療について理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	呼吸機能の障害と治療 1) 気道と肺の疾患 (1) 気道・肺の炎症			講義
	2	(2) 気道閉塞をきたす疾患 (気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患)			講義
	3	(3) 肺循環障害（肺梗塞、肺塞栓症）			講義
	4	(4) 肺の腫瘍			講義
	5	(5) 呼吸不全			講義
	6	循環機能の障害と治療 1) 心臓の疾患 (1) 先天性心疾患			講義
	7	(2) 虚血性心疾患 (3) 心筋症			講義
	8	(4) 心不全 (5) 不整脈 (6) 心内膜炎と弁膜疾患			講義
	9	2) 血管系の疾患 (1) 動脈硬化症 (2) 高血圧			講義
	10	(3) 閉塞性動脈硬化症 (4) 大動脈瘤 (5) 静脈瘤			講義
	11	造血機能障害と治療 1) 造血器の疾患 (1) 貧血			講義
	12	(2) 出血傾向と凝固・線溶系の異常			講義
	13	(3) 白血球減少症			講義
	14	(4) 造血器の腫瘍 (白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫)			講義
15	終講試験				
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	系統看護学講座 成人看護学[2]呼吸器 <医学書院> 系統看護学講座 成人看護学[3]循環器 系統看護学講座 成人看護学[4]造血器				
参考文献					
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	講義前後、テキストを活用し知識の定着を図る		

科目区分	専門基礎分野	科目名	疾病と治療Ⅲ（消化・吸収・代謝・排泄機能障害と治療）		
開講時期	1年次	単位・時間	1単位 30時間	講師名	医師
学習目標	1. 栄養摂取（食）の障害と治療について理解する。 2. 肝機能・糖代謝、脂質・尿酸代謝の障害と治療について理解する。 3. 排泄機能の障害と治療について理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	1. 栄養の摂取・吸収・代謝機能の障害と治療 1) 口腔と食道の疾患と治療 (1) 口腔と食道の機能障害(咀嚼・嚥下機能の障害) (2) 口腔・食道の疾患			講義
	2	2) 消化管の疾患と治療 (1) 消化管の炎症と潰瘍			講義
	3	(2) 消化管の腫瘍			講義
	4	(3) イレウス			講義
	5	3) 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患と治療 (1) 肝臓・胆嚢・膵臓の炎症			講義
	6	(2) 肝硬変			講義
	7	(3) 肝臓・胆嚢・膵臓の腫瘍			講義
	8	(4) 肝不全 (5) 胆汁代謝・排泄の障害			講義
	9	排泄機能の障害と治療 腎の構造と機能			講義
	10	1) 泌尿器の疾患 (1) 腎・泌尿器の炎症			講義
	11	(2) 腎・尿路の腫瘍			講義
	12	(3) 腎・尿路の通過障害			講義
	13	(4) 腎不全			講義
	14	2) 排便の障害 (1) 便秘 (2) 下痢			講義
	15	終講試験			
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	系統看護学講座 成人看護学[15]歯・口腔 <医学書院> 系統看護学講座 成人看護学[5]消化器 系統看護学講座 成人看護学[8]腎・泌尿器				
参考文献					
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	講義前後、テキストを活用し知識の定着を図る		

科目区分	専門基礎分野	科目名	疾病と治療IV(内部環境・生体防御機能障害と治療)		
開講時期	1年次	単位・時間	1単位 30時間	講師名	医師
学習目標	1. 内部環境機能の障害と治療について理解する。 2. 生体防御機能障害と治療について理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	1. 内部環境調節機能の障害と治療 1) 内分泌系の疾患と治療、検査 ①視床下部-下垂体前葉系疾患			講義
	2	②視床下部-下垂体後葉系疾患 ⑤副腎疾患			講義
	3	⑥性腺疾患 ⑦睪・消化管神経内分泌腫瘍			講義
	4	⑧多発性内分泌腫瘍症 ⑨内分泌疾患の救急治療			講義
	5	③甲状腺疾患			講義
	6	④副甲状腺疾患			講義
	7	2) 血糖調節機能の障害と治療、検査 ①代謝疾患(糖尿病)			講義
	8	①代謝疾患(脂質異常)			講義
	9	2. 生体防御機能の障害と治療 1) 免疫機能の障害と治療			講義
	10	(1) 自己免疫疾患			講義
	11	(2) 免疫不全			講義
	12	(3) 感染症			講義
	13	(4) アレルギー性疾患			講義
	14	2) 皮膚・粘膜の障害と治療			講義
15	終講試験				
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	系統看護学講座 成人看護学[6]内分泌・代謝 <医学書院> 系統看護学講座 成人看護学[11]アレルギー・膠原病・感染症 系統看護学講座 成人看護学[12]皮膚				
参考文献					
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	講義前後、テキストを活用し知識の定着を図る		

科目区分	専門基礎分野	科目名	疾病と治療Ⅴ（運動機能障害と治療）		
開講時期	1年次	単位・時間	1単位 15時間	講師名	医師
学習目標	1. 運動機能の障害とその治療について理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	運動器障害と治療 症状とその病態生理・診断・検査			講義
	2	疾患の理解・骨折一般			講義
	3	・脱臼ほか外傷性疾患			講義
	4	・関節、脊椎疾患			講義
	5	・その他の疾患			講義
	6	患者の看護			講義
	7	患者の看護			講義
	8	終講試験			
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	系統看護学講座 成人看護学[10]運動器				
参考文献					
自己学習時間	30時間	事前・ 事後学習	講義前後、テキストを活用し知識の定着を図る		

科目区分	専門基礎分野	科目名	疾病と治療VI（生殖機能障害と治療）		
開講時期	1年次	単位・時間	1単位 15時間	講師名	医師
学習目標	1. 生殖機能の障害とその治療について理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	生殖器の疾患と治療 1) 卵巣機能と女性ホルモン①			講義
	2	2) 卵巣機能と女性ホルモン②			講義
	3	3) 器質的疾患の治療①			講義
	4	4) 器質的疾患の治療②			講義
	5	5) 不妊症と原因			講義
	6	乳腺の疾患 ・乳がん ・乳腺良性腫瘍 ・炎症（乳頭炎、乳輪炎、乳腺炎など）			講義
	7	男性生殖器の疾患			講義
	8	終講試験			
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	系統看護学講座 成人看護学[9]女性生殖器 系統看護学講座 成人看護学[8]腎・泌尿器			<医学書院>	
参考文献					
自己学習時間	30時間	事前・事後学習	講義前後、テキストを活用し知識の定着を図る		

科目区分	専門基礎分野	科目名	疾病と治療Ⅶ（小児に特徴的な機能障害と治療）		
開講時期	2年次	単位・時間	1単位 15時間	講師名	医師
学習目標	1. 小児の特徴的な機能障害とその治療について理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	1. 小児医療と機能障害 2. 遺伝子・染色体異常と形態異常			講義
	2	3. 新生児の特徴的な機能障害と治療			講義
	3	4. 疾患と治療 1) 感染症			講義
	4	2) 呼吸器疾患 3) アレルギー疾患 4) 膠原病・免疫疾患			講義
	5	5) 消化器疾患 6) 腎・泌尿器疾患			講義
	6	7) 神経・筋疾患 8) 運動器疾患 9) 血液疾患と腫瘍			講義
	7	10) 循環器疾患 11) 内分泌・代謝疾患			講義
	8	終講試験			
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	新体系看護学全書 小児看護学②健康障害をもつ小児の看護 <メディカルフレンド>				
参考文献					
自己学習時間	30時間	事前・事後学習	講義前後、テキストを活用し知識の定着を図る		

科目区分	専門基礎分野	科目名	疾病と治療Ⅷ（精神障害とその治療）		
開講時期	2年次	単位・時間	1単位 15時間	講師名	医師
学習目標	1. 精神障害とその治療について理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	精神障害者の抱える症状 1) 精神症状			講義
	2	(1) 不安状態 (2) 強迫症状 (3) 抑うつ状態			講義
	3	(4) 幻覚・妄想状態 (5) 拒絶症状 (6) 自発性減退			講義
	4	2) 精神障害の診断と検査の種類			講義
	5	主な精神障害 1) 脳器質性疾患 2) 症状精神病 3) アルコール依存症			講義
	6	4) てんかん 5) 統合失調症 6) 躁鬱病 7) 神経症と心因精神病 8) 人格障害 9) 児童・思春期に起こりやすい精神障害			講義
	7	各種治療法 1) 薬物療法 2) 電気ショック療法 3) 社会復帰療法 4) 精神療法			講義
	8	終講試験			
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	系統看護学講座 精神看護の基礎 <医学書院>				
参考文献					
自己学習時間	30時間	事前・事後学習	講義前後、テキストを活用し知識の定着を図る		

科目区分	専門基礎分野	科目名	栄 養 学		
開講時期	1 年次	単位・時間	1 単位 30 時間	講師名	栄養士
学習目標	1. 栄養素の消化・吸収・代謝および生理作用について学ぶ。 2. 人間にとっての栄養の意義および健康障害時の食事療法の基本を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	人間栄養学と看護			講義
	2	栄養素の種類とはたらき			講義
	3	食物の消化と栄養素の吸収・代謝			講義
	4	エネルギー代謝			講義
	5	食事と食品			講義
	6	栄養ケア・マネジメント			講義
	7	栄養状態の評価・判定			講義
	8	ライフステージと栄養			講義
	9	臨床栄養①			講義
	1 0	臨床栄養②			講義
	1 1	臨床栄養③			講義
	1 2	臨床栄養④			講義
	1 3	健康づくりと食生活			講義
	1 4	栄養学のまとめ			講義
1 5	終講試験				
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	系統看護学講座 栄養学 <医学書院> 糖尿病食品交換表 <日本糖尿病学会>				
参考文献					
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	講義前後、テキストを活用し知識の定着を図る		

科目区分	専門基礎分野	科目名	微生物学		
開講時期	1年次	単位・時間	1単位 30時間	講師名	臨床検査技師
学習目標	1. 健康を脅かす微生物の基礎知識を学ぶ。 2. 感染症を起こす病原微生物について理解する。 3. 医薬品による健康障害を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	微生物学の基礎 1) 微生物とは何か			講義
	2	2) 微生物の種類と特徴 3) 細菌の形態			講義
	3	感染と感染症			講義
	4	真菌感染の機構、原虫感染、ウイルス感染の機構			講義
	5	獲得免疫のしくみ			講義
	6	感染源、感染経路からみた感染症			講義
	7	消毒と消毒薬 感染症の検査と診断			講義
	8	感染症の治療			講義
	9	感染症の現状と対策			講義
	10	病原細菌と細菌感染症			講義
	11	病原細菌と細菌感染症			講義
	12	病原真菌症とウイルス感染症			講義
	13	ウイルス感染症			講義
	14	微生物学のまとめ			講義
	15	終講試験			
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	系統看護学講座 微生物学 <医学書院>				
参考文献					
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	講義前後、テキスト・配布資料を活用し知識の定着を図る		

科目区分	専門基礎分野	科目名	薬理学		
開講時期	1年次	単位・時間	1単位 30時間	講師名	薬剤師
学習目標	1. 薬理学の基礎知識を理解する。 2. 健康障害に対する薬物療法の作用機序、人体への影響について理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	薬理学総論① 薬理学の概念 薬はどのように作用するのか			講義
	2	薬理学総論② 薬効に影響する因子 薬物中毒はなぜ起こるのか			講義
	3	薬理学総論③ 薬の管理と新薬の誕生 薬物療法とは			講義
	4	治験 主な治療薬・麻酔薬と薬理作用 1) 末梢神経活動に作用する薬物			講義
	5	2) 抗癌剤			講義
	6	3) 循環器系に作用する薬物			講義
	7	4) 免疫治療薬 5) 抗アレルギー・抗炎症薬			講義
	8	6) 抗感染症薬 7) 消毒薬			講義
	9	8) 中枢神経系に作用する薬物			講義
	10	9) 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物			講義
	11	10) ホルモンとホルモン拮抗薬			講義
	12	11) 救急の際に使用される薬物			講義
	13	12) 漢方医学の基礎知識			講義
	14	薬理学総論④ 医薬品等の安全な使用と健康被害 与薬方法と生体の反応 副作用と中毒			講義
	15	終講試験			
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	系統看護学講座 薬理学 <医学書院>				
参考文献					
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	講義前後、テキスト・配布資料を活用し知識の定着を図る		

科目区分	専門基礎分野	科目名	保健医療論		
開講時期	1年次	単位・時間	1単位 15時間	講師名	医師
学習目標	1. 医療の変遷を学び、医の倫理に基づいた医療の役割を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	医学・医療のあゆみ 1) 人類の誕生と医療の原始的形態 2) 古代・中世の医学 3) 近代医学の発展 4) 今後の医学・医療の方向			講義
	2	健康と疾病 1) 生活の場と健康 2) 労働と健康			講義
	3	医と倫理 1) 医療倫理とは 2) 患者の権利 3) 医療における倫理的問題 (1) 病状告知 (2) 脳死と臓器移植 (3) 生殖医療 (4) 遺伝学の発展と倫理的問題 (5) 安楽死と尊厳死 (6) 終末期医療と緩和ケア (7) クローン再生			講義
	4	保健医療のあり方 1) 21世紀の医療サービス 2) 患者からみた保健医療の質			講義
	5	我が国の医療供給体制 1) 方向性と課題 2) 高齢者介護関連制度 3) 地域医療体制 4) 医療過誤対策 5) 医療保険制度 6) 救急医療体制 7) 在宅医療・介護の動向			講義
	6	保健医療チームの連携			講義
	7	災害時の医療体制			講義
	8	終講試験			
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	新体系看護学全書 現代医療論 <メジカルフレンド>				
参考文献					
自己学習時間	30時間	事前・事後学習	講義前後、テキスト・配布資料を活用し知識の定着を図る		

科目区分	専門基礎分野	科目名	公衆衛生		
開講時期	1年次	単位・時間	2単位 30時間	講師名	非常勤講師
学習目標	1. 国民の健康に関する状況と生活環境を学ぶ。 2. 人々が健康を享受するために望ましい制度や組織活動を理解するとともに医療専門職の役割を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	健康と公衆衛生 1) 公衆衛生のあゆみ			講義
	2	疫学と健康に関する指標 1) 保健統計の基本的な考え方 2) 人口の動向			講義
	3	3) 人口の動向把握と必要な指標			講義
	4	環境と公衆衛生 1) 人間と生活環境			講義
	5	2) 健康問題と環境			講義
	6	公衆衛生の対象と活動 1) 保健所・保健センターにおける活動			講義
	7	2) 母子保健			講義
	8	3) 地域保健 4) 学童期の健康管理			講義
	9	5) 生活習慣病予防			講義
	10	6) 感染症とその予防			講義
	11	7) 職場の健康保健			講義
	12	疾病予防と疫学調査法			講義
	13	難病対策			講義
	14	保健行政			講義
	15	終講試験			
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	系統看護学講座 公衆衛生 <医学書院>				
参考文献					
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキストと配布資料を熟読・活用し、知識の定着を図る。		

科目区分	専門基礎分野	科目名	社会福祉		
開講時期	2年次	単位・時間	2単位 30時間	講師名	非常勤講師
学習目標	1. 社会福祉と医療・社会保障の関連について理解する。 2. 対象に必要な社会資源として看護に活用する必要性を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	オリエンテーション、社会福祉・社会保障の定義と理念			講義
	2	第1章 社会保障制度と社会福祉			講義
	3	第2章 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向			講義
	4	第3章 医療保障①			講義
	5	第3章 医療保障②			講義
	6	第4章 介護保障			講義
	7	第5章 所得保障			講義
	8	第6章 公的扶助			講義
	9	第7章 社会福祉の分野とサービス①高齢者福祉			講義
	10	第7章 社会福祉の分野とサービス②障害者福祉			講義
	11	第7章 社会福祉の分野とサービス③児童家庭福祉			講義
	12	第8章 社会福祉実践と医療・看護			講義
	13	第9章 社会福祉の歴史			講義
	14	まとめ			講義
	15	終講試験			
評価方法	筆記試験 中間試験(提出物)				
テキスト	系統看護学講座 社会福祉 <医学書院>				
参考文献					
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキストと配布資料を熟読・活用し、知識の定着を図る。		

科目区分	専門基礎分野	科目名	関係法規		
開講時期	2年次	単位・時間	1単位 15時間	講師名	事務部職員
学習目標	1. 医療法の内容を理解し、社会生活と法とのつながりを理解する。 2. 医療に関する法律を学び、看護師に必要な法規を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	法規の概念	医事法		講義
	2	保健衛生法			講義
	3	薬務法			講義
	4	環境衛生法			講義
	5	社会保険法	福祉法		講義
	6	労働法と社会基本整備			講義
	7	環境法			講義
	8	終講試験			
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	系統看護学講座 看護関係法令 <医学書院>				
参考文献					
自己学習時間	30時間	事前・事後学習	テキストと配布資料を熟読・活用し知識の定着を図る。		